



第59

934

曾我物語

田井板

No 9526



河津三郎横死圖



忠則噴  
禿則生  
福則生





忠誠會  
於金石  
於弟通  
於神明



元二年十月

河津三郎祐基ハ

伊豆の國赤澤の

貞野ヲ持を備し

其時侯野五郎と

相撲を試み竟り打

勝て下山の折より

祐經の依頼よ志し

たる近江八幡の面入

射留らざたり河津の

後室ハ遣子万箱王を連

れ曾我太郎祐信方こそ再

れ曾我太郎祐信方こそ再



△既に斬入とするを白鳥の助命

一因で取りたり儲り建久五年七月

頼朝公征夷大將軍の待賢として

大小各衆集り和田義盛大破し伯

酒毒を催し遊君虎御前を奪

さす虎公の盃を祐

成りさす一室ハ不

奥より襲はたり人とも

此時五郎兄の身の上

をあん一はど

せむまよてい

せむまよてい

せむまよてい

せむまよてい

せむまよてい

せむまよてい

せむまよてい

せむまよてい

せむまよてい

せむまよてい

せむまよてい

せむまよてい

せむまよてい

せむまよてい

せむまよてい

せむまよてい

せむまよてい

せむまよてい

せむまよてい

せむまよてい

せむまよてい





右様々臥居  
 たり兄弟八声を  
 立そと  
 倒へ押の  
 け疾入し首を切  
 ハ死人を斬も同様  
 と呼起し各兼り  
 け難なく斬倒し  
 留めさせし父の怨  
 せらば親びけ



其内を徘徊も其夜辛  
 うして仮屋に刃入  
 ますけ総早  
 けん  
 けん  
 外  
 天を仰  
 折筋虎  
 都合云々  
 の示し随ひ其可  
 忍び入りみ  
 まハ果し



頼朝公見へん一真まへらんとす。  
 所を大勢を文へちれを...  
 松ヶ崎よて謀せり...  
 兄弟の市料  
 として...  
 余町兵母へ賜りけり  
 建久八年五月廿八日



切死せん  
 外面へ出  
 名乗と  
 上げ五十  
 余人ま手  
 を負ハし祐成ハ免よ仁田四郎  
 不首せとらる時三十三才と  
 時教ハ御所正郎丸ま行合ひ  
 とせもせす宙み引さけ

富士郡の内へ曾我  
 而社荒人神と出承め  
 らる美名  
 かよき  
 くる





明治廿二年三月廿日印刷

定價金五錢

今年全月廿八日出版御届

今年四月十日發行

大阪東區北久宝寺町壹丁目廿番地

編輯兼  
發行人

田井久之助

大阪東區南農人町二丁目三番地

印刷者 亀井兼助

